

国際ロータリー2660 地区の皆様

拝呈

入梅の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は、ドキュメンタリー映画「マジでガチなボランティア」の監督の里田と申します。

既に国際奉仕・WCS 委員会委員長、小林澄子さまからご案内をいただいておりますように、本映画が京都で上映されることになりました。

<http://kyoto-minamikaikan.jp/sc/schedule1106b.html>

そこで国際ロータリーの皆様に、ぜひこの映画をご覧頂きたく希望しております。

この映画は、皆様にご支援頂いている GRAPHIS 診療所の建設に至るまでの経緯や、GRAPHIS の学生達がどのようにして、またどんな思いで活動を行ってきたのかということを描いています。

あくまで学生の中から見た GRAPHIS 診療所を描いているため、ともすると大人の中から見れば、学生故の至らなさばかりが目立つのかもしれませんが。

しかしながら、私はその至らなさの中に、学生がボランティア活動を行うことの意義を見出しています。

「至らなくても行動し続ける」その大切を彼らの活動から感じてきました。

その姿を皆様にもぜひお知り頂きたいと希望しております。

また、国際ロータリーの皆様のご支援が、どれほど GRAPHIS 診療所を助けているかにつきましては、西口さま、ピーター博士、佐々木夫妻から常々伺っております。

皆様の行動を心より尊敬いたしております。

皆様の支援がどれほど GRAPHIS 診療所とカンボジアの人々に役立っているのかについても、この映画を通じて皆様の活動をご存知ない方々に、改めてお知り頂く機会になり得るのではないかと考えております。

ぜひ初日である 6 月 18 日に劇場でお会いできることを心よりお待ち申し上げます。

これからも一層のご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

拝具 里田剛